

文 学 部

履 修 要 項

平 成 2 年 度

駒澤大學

# 学 年 曆

## 前 期

- 4月8日(日) 入学式
- 9日(月) } 新生オリエンテーション
- 13日(金) }
- 9日(月) } 在校生身分証明登録
- 19日(木) }
- 9日(月) } 在校生成績発表
- 10日(火) }
- 9日(月) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(火) } 受付(学部2年次生)
- 11日(水) } 在校生成績質疑応答
- 20日(金) }
- 14日(土) 前期授業開始
- 23日(月) } 履修届受付(学部・短大)
- 26日(木) } (学部により受付日が異なる)
- 5月7日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 11日(金) }
- 25日(金) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月11日(月) }
- 7月6日(金) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米文>・法学部・短大国文・英文の1年次生および昭和63年度以前入学の経済学部の2年次生)
- 12日(木) }
- 13日(金) } 中間試験(授業平常どおり)
- 19日(木) }
- 19日(木) 前期授業最終日
- 20日(金) } 前期終了科目定期試験
- 21日(土) }
- 23日(月) 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 22日(日) } 体育実技II集中授業コース
- 26日(木) } (学部2年次生)
- 26日(木) 前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切

## 後 期

- 9月7日(金) } 補講期間
- 14日(金) }
- 17日(月) 後期授業開始
- 17日(月) } 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答) および再試験申込受付
- 18日(火) }

- 25日(火) } 前期終了科目追・再試験
- 10月1日(月) } (授業平常どおり)
- 10月2日(火) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 5日(金) }
- 3日(水) } 専攻コース指定届受付
- 4日(木) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(月) 第108回開校記念日(全学休業)
- 24日(水) } 転部・転科試験願書受付
- 26日(金) }
- 11月16日(金) 転部・転科試験
- 12月1日(土) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 10日(月) }
- 3日(月) } 編・再入学願書受付
- 7日(金) }
- 19日(水) 冬季休暇第1日(1月7日まで)
- 19日(水) } 体育実技II集中授業コース
- 23日(日) } (学部2年次生)
- 20日(木) 編・再入学試験

## 平成3年

- 1月8日(火) 後期授業再開
- 14日(月) 後期授業最終日
- 16日(水) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 25日(金) }
- 26日(土) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 2月4日(月) }
- 5日(火) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 6日(水) 定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 18日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
- 22日(金) }
- 19日(火) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 20日(水) }
- 25日(月) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 3月2日(土) } および追試験(学部1~3年次生)
- 19日(火) 卒業生名簿発表
- 25日(月) 卒業式

# 目 次

## I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 ..... (1)
2. 授業科目の単位計算 ..... (1)
3. 授業科目の区分 ..... (1)

## II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 ..... (2)
2. 卒業論文 ..... (12)
3. 学 士 号 ..... (12)

## III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 ..... (13)
2. 外国語科目の履修方法 ..... (15)
3. 保健体育科目の履修方法 ..... (19)
4. 基礎教育科目の履修方法 ..... (20)
5. 専門教育科目の履修方法 ..... (20)
6. 他学部科目の履修方法 ..... (40)
7. 随意科目の履修方法 ..... (42)
8. 再履修科目の履修方法 ..... (42)
  - ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 ..... (43)
  - ※ 授業科目のコード番号について ..... (44)

## IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 ..... (45)
2. 履修届記入上の注意 ..... (46)
3. 履修届（時間割）の作成順序 ..... (47)

## V 試験および成績評価

1. 定期試験 ..... (49)
2. 中間試験 ..... (49)
3. 追・再試験 ..... (49)
4. 受験心得 ..... (50)
5. 成績評価・単位認定 ..... (50)
6. 試験時間 ..... (50)

VI	進級について	(51)
VII	クラス制およびクラス主任	(52)
VIII	教職課程・資格講座	(52)
IX	事務取扱いについて	
	1. 成績発表・成績証明書	(53)
	2. 授業時間	(53)
	3. 事務室の事務受付時間	(53)
	4. 休講	(53)
	5. 掲示	(53)
	6. 問い合わせ	(53)
X	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(54)
	2. 休学	(54)
	3. 復学	(54)
	4. 退学	(55)
	5. 除籍	(55)
	6. 懲戒	(55)
	7. 編入学(学士入学)	(55)
	8. 再入学	(55)
	9. 転部・転科	(55)
	10. 留学	(56)
	11. 学生氏名・保証人	(56)
	12. 学生番号	(56)
XI	既修得単位の認定について	(57)
XII	届書・願書について	(58)
XIII	各種証明書取扱い窓口	(59)
	試験実施規程(抜粋)	(60)
	講義内容	(63)

# I 単位制と学年制

## 1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

## 2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

## 3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- |           |                    |       |           |
|-----------|--------------------|-------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | （人文分野・社会分野・自然分野）   | …………… | 選択必修科目    |
| 2. 外国語科目  | （第1外国語・第2外国語）      | …………… | 選択必修科目    |
| 3. 保健体育科目 | （講義・実技）            | …………… | 必修科目      |
| 4. 基礎教育科目 | （専門教育科目の基礎となる科目）   | …………… | 必修科目      |
| 5. 専門教育科目 | （専門的知識を内容とする科目）    | …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目  | （履修可能な他学部公開設置科目）   | …………… | 選択科目      |
| 7. 随意科目   | （卒業に必要な単位に含まれない科目） | …………… | 選択科目      |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目  
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目  
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

## Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

### 1. 卒業に必要な単位数

#### 国文学科

##### A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

##### B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

# 英米文学科

## A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

## B. 昭和58・59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

## 地理学科

### A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

### B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

〔日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻〕

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔考古学専攻〕

A. 昭和62年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	10	38	72	
	選択		26		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60・61年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔考古学専攻〕

C. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 ( 必 修 )		8		

社会学科  
〔社会学コース〕

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

A. 昭和63年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	13	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60～62年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

[心理学コース]

A. 昭和60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目	育 科 目	3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目	育 科 目	3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

## 2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

### イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（金）～6月11日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

### ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと（英米文・地理・社会学科はワープロ使用可）。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

### ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（土）～10日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

### ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月5日（火）

## 3. 学士号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書が授与され、次の学士の称号が与えられる。

文学部	国文学科	} .....	文学士
	英米文学科		
	地理学科		
	歴史学科		
	社会学科		

### Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

#### 授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

#### 1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学 科 \ 分 野	人 文 分 野	社 会 分 野	自 然 分 野	計
国 文 学 科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英 米 文 学 科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地 理 学 科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴 史 学 科	16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社 会 学 科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ ( ) 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人 文 分 野			社 会 分 野				自 然 分 野		
	授 業 科 目	単 位	修得単位	授 業 科 目	単 位	修得単位	備 考	授 業 科 目	単 位	修得単位
国 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
英 米 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
地 理 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			物 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			化 学	4	
	文 学	4		文 化 人 類 学	4			生 物 学	4	
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
歴 史 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			地 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			心 理 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
社 会 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		政 治 学	4			生 物 学	4	
	論 理 学	4		経 済 学	4			地 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4								
	芸術学(日本美術)	4								
芸術学(西洋美術)	4									

※「宗教学I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになり、その2ヵ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

### 第1外国語

年次 \ 学科	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
2年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
3年次	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—
計	4	8	5	10	4	8	4	8	4	8

### 第2外国語

年次 \ 学科	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4

## 1年次の履修

6ヵ国語のうち英語 I A・I Bの2科目と入学手続の際に指定した外国語 I A・I Bの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 I A	2		I A・I Bの2科目を必修とする。ただし I Aは「英会話 I (定員40名)」または「英語LL I (定員30名)」に振り替えできる。(ただし英米文学科は「英会話 I」に振り替えできない。)なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 I B	2		
英会話 I	2		
英語 LL I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 I A	2	文法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語 I A・I Bの2科目を必修とする。
ドイツ語 I B	2	講読	
フランス語 I A	2	文法	
フランス語 I B	2	講読	
中国語 I A	2		
中国語 I B	2		
スペイン語 I A	2		
スペイン語 I B	2		
ロシア語 I A	2		
ロシア語 I B	2		

### 〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新名称	旧名称
{ 英語, ドイツ語, フランス語 } I A { 中国語, スペイン語, ロシア語 }	{ 英語, ドイツ語, フランス語 } I G { 中国語, スペイン語, ロシア語 }
{ 英語, ドイツ語, フランス語 } I B { 中国語, スペイン語, ロシア語 }	{ 英語, ドイツ語, フランス語 } I R { 中国語, スペイン語, ロシア語 }

### ※ 英語科目内容

英語 I A : 意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 I B : 講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

### ※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語 I B」の授業は月曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。

## 2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語としⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とすること。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

### 〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新 名 称	旧 名 称	
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 } Ⅱ A	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	2 A I
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 } Ⅱ B	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	2 A II

### ※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

## 3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 Ⅲ	2	講 読	1 科 目 必 修

### 〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新 名 称	旧 名 称
英 語 Ⅲ	英 語 3 A

※「英語Ⅲ」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

#### 外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次の7月6日（金）～12日（木）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。（ただし、英米文学科は『英語』のため登録の必要がない。）なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。  
また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず行うこと。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.42参照）。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

### 3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生には、旧カリキュラムが適用される。

#### A. 昭和60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

#### B. 昭和59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

#### 4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

基礎教育科目とは専門教育の基礎となる授業科目で、各年次別履修順序は次表のとおりである。

学科 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉原論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会 話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会 話)	2						

(注意) 「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を、「社会福祉原論」は「社会福祉概論」を名称変更したものである。

#### 5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科	地理学科	歴史学科			社会学科			
		昭和58年度以降入学生適用		日本史 東洋史 西洋史	考古学		社会学	社会福祉		心理学
					62年度以降入学生適用	61年度以降入学生適用		63年度以降入学生適用	63年度以降入学生適用	
必修科目	36(12)	28(7)	16(6)	32(8)	38(10)	32(8)	48(12)	48(13)	48(12)	28(8)
選択科目	28	36	48	32	26	32	16	16	16	36
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

※ ( ) 内の数字は科目数

# 国文学科

## 必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国 文 学 講 読 I	2		国 文 学 研 究	4	
2 年 次 必 修			国 文 学 史 ( 上 代 )	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 3 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 以外 を 履 修 す る こ と。
国 語 学 概 論	4		国 文 学 史 ( 中 古 )	4	
国 文 学 概 論	4		国 文 学 史 ( 中 世 )	4	
国 文 学 講 読 II	2		国 文 学 史 ( 近 世 )	4	
中 国 文 学 講 読	2		国 文 学 史 ( 近 代 )	4	
3 年 次 必 修			国 語 学 演 習 II	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。
国 文 学 史 ( 上 代 )	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	国 文 学 演 習 II ( 上 代 )	2	
国 文 学 史 ( 中 古 )	4		国 文 学 演 習 II ( 中 古 )	2	
国 文 学 史 ( 中 世 )	4		国 文 学 演 習 II ( 中 世 )	2	
国 文 学 史 ( 近 世 )	4		国 文 学 演 習 II ( 近 世 )	2	
国 文 学 史 ( 近 代 )	4		国 文 学 演 習 II ( 近 代 )	2	
国 語 学 研 究	4		卒 業 論 文	8	12 頁 参 照
国 文 学 講 読 III	2				
国 語 学 演 習 I	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 原 則 として 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。			
国 文 学 演 習 I ( 上 代 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 中 古 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 中 世 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 近 世 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 近 代 )	2				

(注意) 3 年次で「国文学演習 I」を履修した者は原則として 4 年次も「国文学演習 II」を、また 3 年次で「国語学演習 I」を履修した者は 4 年次でも「国語学演習 II」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A 群	上 代 文 学	4		国 文 学 特 講 II	4	
	中 古 文 学	4		国 文 学 特 講 III	4	
	中 世 文 学	4		国 文 学 特 講 IV	4	
	近 世 文 学	4		国 文 学 史 (上代)	4	} 選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること。
	近 代 文 学	4		国 文 学 史 (中古)	4	
	国 語 史	4	} 隔年開講	国 文 学 史 (中世)	4	
	国 語 学 史	4		国 文 学 史 (近世)	4	
	文 学 概 論	4	休 講	国 文 学 史 (近代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	
	有 職 故 実	4	休 講	近 代 文 学 講 読	2	
国 文 学 特 講 I	4					

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B 群	中 国 文 学	4		日 本 文 化 史 I	4	} 休 講 } 隔年開講
	中 国 文 学 演 習	4		日 本 文 化 史 II	4	
	中 国 文 学 概 論	4		現 代 美 術	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 I	4	
	英 米 文 化	4		書 道 実 習 II	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 I	4	古代・中世	美 術 史	2	半期科目
	日 本 史 概 説 II	4	近世・近代	書 道 史	2	半期科目
	日 本 民 俗 学	4		編 集 実 務	2	半期科目

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上、「B群」より2科目以上選び履修されたい。

# 英米文学科

## 必修科目

### A. 平成2年度入学生適用 (36単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 音 声 学	4		米 文 学 演 習 Ⅱ	4	
2 年 次 必 修			米 文 学 演 習 Ⅲ	4	
英 語 学 概 論	4		英米語学演習(言語学)	4	
英 作 文 I	4		英米語学演習(音声学)	4	
3 年 次 必 修			英米語学演習(英語史)	4	
英 語 史	4		4 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 I	4	1科目4単位選択必修	卒 業 論 文	8	12頁参照
英 文 学 演 習 Ⅲ	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 V	4		英 文 学 史 I	4	※ 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
英 文 学 演 習 VI	4		英 文 学 史 Ⅱ	4	
英 文 学 演 習 VII	4		米 文 学 史	4	
米 文 学 演 習 I	4				

### B. 平成元年度以前入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 学 概 論	4		卒 業 論 文	8	12頁参照
英 作 文 I	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			英 文 学 史 I	4	※ 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
音 声 学	4		英 文 学 史 Ⅱ	4	
英 語 史	4		米 文 学 史	4	
シェイクスピア	4				

※「英文学史Ⅰ」・「英文学史Ⅱ」・「米文学史」のうち2科目を選択必修とし、残りの1科目は専門選択科目として履修できない。

選 択 科 目 (36単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英文学特講Ⅰ	4	2・3・4		米文学演習Ⅵ	4	2・3・4	
英文学特講Ⅱ	4	2・3・4		英米演劇演習	4	2・3・4	
英文学特講Ⅲ	4	2・3・4		時事英語	4	2・3・4	
英文学特講Ⅳ	4	2・3・4		商業英語	4	2・3・4	
英文学特講Ⅴ	4	2・3・4		ラテン語特講	4	2・3・4	
英文学特講Ⅵ	4	2・3・4		英米文化	4	2・3・4	
米文学特講Ⅰ	4	2・3・4		日本文化史Ⅰ	4	2・3・4	休講 } 隔年開講
米文学特講Ⅱ	4	2・3・4		日本文化史Ⅱ	4	2・3・4	
米文学特講Ⅲ	4	2・3・4		現代美術	4	2・3・4	
米文学特講Ⅳ	4	2・3・4		英文学演習Ⅰ	4	3・4	}
米文学特講Ⅴ	4	2・3・4		英文学演習Ⅲ	4	3・4	
英米演劇特講	4	2・3・4		英文学演習Ⅴ	4	3・4	
英米語学演習 (英文法)	4	3・4		英文学演習Ⅵ	4	3・4	
英米語学演習 (英作文Ⅱ)	4	3・4		英文学演習Ⅶ	4	3・4	※イ, ロ
英米語学演習 (英会話)	2	3・4		米文学演習Ⅰ	4	3・4	
英文学演習Ⅱ	4	2・3・4		米文学演習Ⅱ	4	3・4	
英文学演習Ⅳ	4	2・3・4		米文学演習Ⅲ	4	3・4	
英文学演習Ⅶ	4	2・3・4		英米語学演習 (言語学)	4	3・4	旧「英米語学演習(英語学)」
米文学演習Ⅳ	4	2・3・4		英米語学演習 (音声学)	4	3・4	
米文学演習Ⅴ	4	2・3・4		英米語学演習 (英語史)	4	3・4	

※イ. 平成2年度入学生は, 3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

※ロ. 平成元年度以前入学生は, 3年次または4年次に選択科目として履修できる。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

- イ. 2・3・4年次に演習1科目(4単位)ずつ、あわせて3科目(12単位)を極力履修すること。
- ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。
- ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。  
※ 平成2年度入学生は、1科目必修のこと。
- ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。  
※ 平成2年度入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

II) 履修上の注意

- イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に『単位履修届』を提出する前に、受講希望の科目担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。
- ロ. 担当の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地理学科

必修科目(24単位)

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (12頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

(注意) 「地理学演習」および「野外巡検(Ⅰ・Ⅱ)」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選 択 科 目 (48単位以上)

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		歴 史 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		人 口 地 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		原 書 講 読	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 II	4	
地 図 学	4		外 国 地 誌 II	4	
日 本 地 誌 I	4		地 理 学 特 講 I	2	半期科目
外 国 地 誌 I	4		3 ・ 4 年 次 選 択		
3 年 次 選 択			文 化 地 理 学	4	
地 質 学	4		都 市 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4		計 量 地 理 学	4	
地 形 学 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
気 候 学	4		日 本 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		外 国 地 誌 III	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
環 境 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	

(注意) 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし、下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学（I・II）」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学（I・II）」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1ヵ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届け出ること。）

必修科目

(1) 日本史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(日本史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替える。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(日本史)	4	
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(2) 東洋史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替える。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(東洋史)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替える。
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修	演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻

A. 昭和62年度以降入学生適用 (46単位)

2・3・4年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古学実習(写真)	4	} 1科目4単位 選択必修
考古学史	4		考古学実習(測量)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学実習(石器)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修	3年次必修		
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		考古発掘実習	2	
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替える。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照

B. 昭和61年度以前入学生適用 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替えて可。
考古学史	4		4年次必修		
考古学概説Ⅰ(日本)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		卒業論文	8	12頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				

選 択 科 目（2年次以降の履修科目）

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻（32単位以上）

考古学専攻（昭和62年度以降入学生適用，26単位以上）

（昭和61年度以前入学生適用，32単位以上）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 I（古 代）	4	旧「東洋史特講Ⅶ」 休 講
日 本 史 各 説 II	4		東洋史特講 II（古 代）	4	
日 本 史 各 説 III	4		東洋史特講 III（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 IV	4		東洋史特講 IV（中 世）	4	休 講
東洋史各説 I（古 代）	4	旧「東洋史各説Ⅱ」	東洋史特講 V（中 世）	4	
東洋史各説 II（古 代）	4	休 講	東洋史特講 VI（中 世）	4	旧「東洋史特講Ⅲ・Ⅵ」 休 講
東洋史各説 III（中 世）	4	旧「東洋史各説Ⅰ」	東洋史特講 VII（近 世）	4	
東洋史各説 IV（中 世）	4	休 講	東洋史特講 VIII（近 世）	4	
東洋史各説 V（近 世）	4	旧「東洋史各説Ⅲ」	東洋史特講 IX（近 世）	4	休 講
東洋史各説 VI（近 世）	4	休 講	東洋史特講 X（近・現代）	4	
東洋史各説 VII（近・現代）	4		東洋史特講 XI（近・現代）	4	旧「東洋史特講Ⅳ」 休 講
東洋史各説 VIII（周 辺 史）	4		東洋史特講 XII（近・現代）	4	旧「東洋史特講Ⅱ」
東洋史各説 IX（周 辺 史）	4	旧「東洋史各説Ⅳ」	東洋史特講 XIII（周 辺 史）	4	旧「東洋史特講Ⅴ」
東洋史各説 X（周 辺 史）	4	旧「東洋史各説Ⅱ」	東洋史特講 XIV（周 辺 史）	4	旧「東洋史特講Ⅰ」 休 講
西 洋 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 XV（周 辺 史）	4	
西 洋 史 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4	休 講	西 洋 史 特 講 II	4	
西 洋 史 各 説 IV	4		西 洋 史 特 講 III	4	休 講
考 古 学 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 IV	4	休 講
考 古 学 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 V	4	
考 古 学 各 説 III	4	休 講	西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4	休 講	西 洋 各 国 史 II	4	
日本史特講 I（古 代）	4		西 洋 各 国 史 III	4	
日本史特講 II（中 世）	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日本史特講 III（中 世）	4		考 古 学 特 講 I	4	
日本史特講 IV（近 世）	4		考 古 学 特 講 II	4	休 講
日本史特講 V（近 世）	4		考 古 学 特 講 III	4	} 隔年開講
日本史特講 VI（近 代）	4		考 古 学 特 講 IV	4	
日本史特講 VII（近 代）	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		人 文 地 理 学 概 説	4	
古 文 書 講 読 II	4		地 誌 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4	休 講	哲 学 史	4	
日 本 仏 教 史 II	4	休 講	歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 III	4		仏 教 美 術	4	
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	西 域 美 術 史	4	
日 本 文 化 史 II	4		美 術 史 概 説	4	
西 洋 文 化 史 I	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
西 洋 文 化 史 II	4		演 習 I	4	※イ ※ロ
西 洋 文 化 史 III	4	休 講	演 習 II	4	
考 古 学 実 習 (写 真)	4	} (注) ※イ	日 本 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	} (注)
考 古 学 実 習 (測 量)	4		日 本 史 概 説 II (近 世・近 代)	4	
考 古 学 実 習 (石 器)	4		東 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	
考 古 学 実 習 (土 器)	4		東 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		西 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	
有 職 故 実	4		休 講	西 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	
中 国 歴 史 文 学	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4	
日 本 民 俗 学	4		考 古 学 概 説 II (外 国)	4	
歴 史 地 理 学	4				

※イ. 3年次の履修科目

※ロ. 4年次の履修科目

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

### [名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
東洋史特講 I (古 代)	東洋史特講 VII (古 代 史)	東洋史各説 I (古 代)	東洋史各説 II
東洋史特講 VI (中 世)	東洋史特講 III (中 世 史)	東洋史各説 III (中 世)	東洋史各説 I
	東洋史特講 VI (中 世 史)	東洋史各説 V (近 世)	東洋史各説 III
東洋史特講 XI (近・現代)	東洋史特講 IV (近代・現代史)	東洋史各説 IX (周辺史)	東洋史各説 IV
東洋史特講 XII (近・現代)	東洋史特講 II (近世・近代史)	東洋史各説 X (周辺史)	東洋史各説 II (昭和59年度 光島担当分)
東洋史特講 XIII (周辺史)	東洋史特講 V (西・中央アジア史)	考 古 学 実 習 (写 真)	考古学実習 I (写 真)
東洋史特講 XIV (周辺史)	東洋史特講 I (中国周辺史)	考 古 学 実 習 (測 量)	考古学実習 III (測 量)
		考 古 学 実 習 (石 器)	考古学実習 II (記 録)
		考 古 学 実 習 (土 器)	考古学実習 IV (調 査)

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届け出ること。）

(1) 社会学コース

必修科目 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20単位 選択必修  休講
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習 I	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習 II	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	12頁参照	外書講読 I	4	
			外書講読 II	4	
			社会学特講 I	4	
			社会学特講 II	4	
			社会学特講 III	4	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選 択 科 目 (16単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	(注) 休 講	図 書 館 学 II	4	
産 業 社 会 学	4		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法総論」
都 市 社 会 学	4		法 学 (福 祉)	4	旧「社会福祉法制」
農 村 社 会 学	4		社 会 保 障 論	4	旧「社会保障概論」
家 族 社 会 学	4		老 人 福 祉 論	4	
法 社 会 学	4		児 童 福 祉 論	4	
宗 教 社 会 学	4		地 域 福 祉 論	4	
社 会 心 理 学	4		基 礎 心 理 学 I	4	
社 会 病 理 学	4		産 業 心 理 学	4	
外 書 講 読 I	4		グループ・ダイナミックス	4	休 講
外 書 講 読 II	4		民 法	4	
社 会 学 特 講 I	4		労 働 法	4	
社 会 学 特 講 II	4		行 政 法	4	
社 会 学 特 講 III	4		経 済 原 論	4	
社 会 学 原 論	4		社 会 政 策	4	
図 書 館 学 I	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
社会福祉援助技術総論	— 社会福祉方法総論
法 学 (福 祉)	— 社会福祉法制
社 会 保 障 論	— 社会保障概論

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 昭和63年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2 ・ 3 ・ 4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	部 門	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉調査論	2		方法・援助技術部門	社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※ ※ ※ 3科目12単位 選択必修
社会福祉援助技術総論	4	※		社会福祉援助技術各論ⅠB	4	
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※		社会福祉援助技術各論ⅡA	4	
法 学 (福 祉)	4	*		リハビリテーション論	4	
				社会福祉計画論	4	
				社会福祉運営論	4	
3 年 次 必 修			分野部門	家族福祉論	4	* * * * * 3科目12単位 選択必修
演 習 I	4	社会福祉		児童福祉論	4	
社会福祉調査実習	2			障害者福祉論	4	
				老人福祉論	4	
4 年 次 必 修				地域福祉論	4	
演 習 II	4	社会福祉		公的扶助論	4	
卒 業 論 文	8	12頁参照		医療福祉論	4	
				婦人福祉論	4	
				保健福祉論	4	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のもの、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づいている。

ロ. ※印および\*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に\*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ハ. 3年次選択科目の「社会福祉援助技術現場実習」および「社会福祉援助技術演習(I・II)」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

ニ. 「社会福祉援助技術実習」(2年次選択科目)および「社会福祉援助技術現場実習」(3年次選択科目)の履修時には、本学が定める実習費を別に納入しなければならない。

選択科目

A. 昭和63年度以降入学生適用（16単位以上）

2 年 次 選 択			2・3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉援助技術実習	2	※	社会 保 障 論	4	*
			社会福祉発達史	4	
3 年 次 選 択			社会福祉外書講読	4	
社会福祉援助技術現場実習	4	※	海外社会福祉論	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	社 会 学(福祉)	4	*
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	心 理 学(福祉)	4	*
			医 学 一 般	4	※
2・3・4 年 次 選 択			介 護 概 論	4	※
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障 害 児 教 育 原 論	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障 害 児 教 育 方 法 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障 害 児 病 理	4	休 講
リハビリテーション論	4		障 害 児 心 理	4	休 講
社会福祉計画論	4		家 族 社 会 学	4	
社会福祉運営論	4		法 社 会 学	4	
家族福祉論	4		産 業 社 会 学	4	
児童福祉論	4	*	社 会 病 理 学	4	休 講
障害者福祉論	4	*	心 理 検 査 法	4	
老人福祉論	4	*	グループ・ダイナミックス	4	休 講
地域福祉論	4	*	カ ウ ン セ リ ン グ	4	
公的扶助論	4	*	精 神 医 学	4	
医療福祉論	4		精 神 病 理 学	4	休 講
婦人福祉論	4		図 書 館 学 Ⅰ	4	
保健福祉論	4		図 書 館 学 Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		労 働 法	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		民 法	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休 講	経 済 原 論	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。  
「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

必修科目

B. 昭和62年度以前入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 保 障 論	4	*旧「社会保障概論」	公 的 扶 助 論	4	*
法 学 (福 祉)	4	*旧「社会福祉法制」	障 害 者 福 祉 論	4	*旧「障害福祉論」
社会福祉援助技術総論	4	※旧「社会福祉方法総論」	老 人 福 祉 論	4	*
			児 童 福 祉 論	4	*
3 年 次 必 修			婦 人 福 祉 論	4	旧「母子福祉論」
社会福祉実習Ⅰ	4	※	医 療 福 祉 論	4	旧「医療社会事業論」
演 習 Ⅰ	4	社会福祉	地 域 福 祉 論	4	*
			社 会 福 祉 発 達 史	4	旧「社会福祉事業発達史」
4 年 次 必 修			社 会 福 祉 運 営 論	4	旧「社会福祉管理運営論」
演 習 Ⅱ	4	社会福祉	社 会 福 祉 外 書 講 読	4	旧「福祉外書講読」
卒 業 論 文	8	12頁参照	リハビリテーション論	4	
			社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※旧「社会福祉調査論」

A群  
(3科目12単位選択必修)

B群  
(3科目12単位選択必修)

(注意)「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは昭和63年度から実施される『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づき改定した。

ロ. 社会福祉士国家試験の受験資格取得希望学生は、指定科目をすべて履修できるよう特別の配慮がしてある。

ハ. ※印および\*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に\*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ニ. 選択科目の「社会福祉援助技術演習(Ⅰ・Ⅱ)」および「社会福祉援助技術現場実習」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

[名称変更科目] 旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
社会福祉原論	社会福祉概論	婦人福祉論	母子福祉論
社会学(福祉)	社会福祉法制	社会保障論	社会保障概論
社会福祉援助技術総論	社会福祉方法総論	社会福祉発達史	社会福祉事業発達史
社会福祉援助技術各論ⅠA	ケースワーク論	社会福祉運営論	社会福祉管理運営論
社会福祉援助技術各論ⅠB	グループワーク論	社会福祉外書講読	福祉外書講読
障害者福祉論	障害福祉論	社会福祉援助技術現場実習	社会福祉実習Ⅱ
医療福祉論	医療社会事業論	社会福祉援助技術各論ⅡB	社会福祉調査論

選択科目

B. 昭和62年度以前入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	*	社会学（福祉）	4	*
障害者福祉論	4	*旧「障害福祉論」	心理学（福祉）	4	*
老人福祉論	4	*	医学一般	4	※
児童福祉論	4	*	介護概論	4	※
婦人福祉論	4	旧「母子福祉論」	心理検査法	4	
医療福祉論	4	旧「医療社会事業論」	グループ・ダイナミックス	4	休講
地域福祉論	4	*	カウンセリング	4	
社会福祉発達史	4	旧「社会福祉事業発達史」	精神医学	4	
社会福祉運営論	4	旧「社会福祉管理運営論」	精神病理学	4	休講
社会福祉外書講読	4	旧「福祉外書講読」	産業社会学	4	
リハビリテーション論	4		家族社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※旧「社会福祉調査論」	法社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※旧「ケースワーク論」	社会病理学	4	休講
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※旧「グループワーク論」	障害児教育原論	4	
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障害児教育方法論	4	休講
海外社会福祉論	4		障害児病理	4	休講
社会福祉学特講Ⅰ	4		障害児心理	4	休講
社会福祉学特講Ⅱ	4		図書館学Ⅰ	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		図書館学Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		社会政策	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休講	行政法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	労働法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	民法	4	
社会福祉計画論	4		経済原論	4	
社会福祉調査論	2	昭和63年度新設科目			
社会福祉調査実習	2		3・4年次選択		
家族福祉論	4		社会福祉援助技術現場実習	4	※旧「社会福祉実習Ⅱ」
保健福祉論	4				

（注意） 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

〔廃講科目〕

基礎心理学Ⅰ・基礎心理学Ⅱ・社会心理学・宗教社会学・都市社会学・農村社会学・青少年問題研究

(3) 心理学コース  
必修科目(36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ(実習)	2	} 1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2		心理学研究Ⅴ(実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	} 1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 休 講	心理学研究Ⅵ(実習)	2	} 1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 { 2 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 } 以 外 を 履 修 す る こ と 。 休 講
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ(実習)	2	}	演 習	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		卒 業 論 文	8	13頁参照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

選 択 科 目 (36単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	必修として履修した科目以外を履修すること。 休 講	心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神病理学	4	休 講
基礎心理学Ⅴ	4		心身医学	4	休 講
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること。	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		社会病理学	4	休 講
心理学研究Ⅴ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法総論」
生理心理学	4		障害者福祉論	4	旧「障害福祉論」
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
グループ・ダイナミクス	4	休 講	民 法	4	
カウンセリング	4		経 済 原 論	4	
心理検査法	4		行 政 法	4	
禅心理学	4		労 働 法	4	
心理学特講Ⅰ	4				

(注意) 2年次における「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
社会福祉援助技術総論	社会福祉方法総論
障害者福祉論	障害福祉論

## 6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

### イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.41参照）

### ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

### ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

### ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

### ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

### ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.42）を参照のこと。

### ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
禅学科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		経済学科	ソビエト経済論	4	3・4	
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			社会政策	4	3・4	社会学科除く
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			国民所得論	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			中国経済論	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4			アジア経済論	4	3・4	
	哲学史	4	3・4	歴史学科除く		日本経済史	4	3・4	
仏教学科	印度仏教史	4	3・4		中小企業論	4	3・4		
	中国仏教史	4	3・4		教育経済論	4	3・4	地理学科除く	
	日本仏教史	4	3・4		アメリカ経済論	4	3・4		
	日用経典	4	3・4		財務会計論	4	3・4		
	仏教美術	4	3・4	歴史学科除く	管理会計論	4	3・4		
	現代哲学概説	4	3・4		会計監査論	4	3・4		
国文学科	上代文学	4	3・4	国文学科除く	商学科	商業政策	4	3・4	
	中世文学	4	3・4	国文学科除く		貿易論	4	3・4	
	近世文学	4	3・4	国文学科除く		マーケティング	4	3・4	
	近代文学	4	3・4	国文学科除く		原価計算論	4	3・4	
	中国文学	4	3・4	国文・歴史学科除く		労務管理論	4	3・4	
英米文学科	英文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く	法律学科	行政法Ⅱ	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4	英米文学科除く		民法Ⅳ(1)	4	3・4	社会学科除く
	英文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く		民法Ⅳ(2)	4	4	
	英文学特講Ⅳ	4	3・4	英米文学科除く		政治学科	比較憲法	4	3・4
	英文学特講Ⅴ	4	3・4	英米文学科除く	地方自治法		4	3・4	
	英文学特講Ⅵ	4	3・4	英米文学科除く	経済法		4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4	英米文学科除く	国際関係論		4	3・4	
	米文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く	西洋政治史		4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く	宣伝広告論		4	3・4	
	時事英語	4	3・4	英米文学科除く	比較社会構造論	4	3・4	休講	
地理学科	地質学	4	3・4	地理学科除く	経営学科	政党論	4	3・4	
	気候学	4	3・4	地理学科除く		経営学史	4	3・4	
	人口地理学	4	3・4	地理学科除く		国際経営論	4	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4	地理学科除く		経営統計	4	3・4	
	都市地理学	4	3・4	地理学科除く		保険経営論	4	3・4	
	文化地理学	4	3・4	地理学科除く		財務会計論	4	3・4	
歴史学科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	歴史学科除く		経営分析論	4	3・4	
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4	歴史学科除く		税務会計論	4	3・4	
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	歴史学科除く		経営労務論	4	3・4	
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4	歴史学科除く		商業史	4	3・4	
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	歴史学科除く	短大国文科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	国文学科除く
	歴史哲学	4	3・4	歴史学科除く		国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	国文学科除く
哲学史	4	3・4	歴史学科除く	国文講読Ⅲ(中世)		2	3・4	国文学科除く	
日本民俗学	4	3・4	歴史・国文学科除く	国文講読Ⅳ(近世)		2	3・4	国文学科除く	
社会学科	マスコミュニケーション	4	3・4	社会学科除く		国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4	国文学科除く
	産業社会学	4	3・4	社会学科除く		国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4	国文学科除く
	都市社会学	4	3・4	社会学科除く	短英大科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	国文学科除く
	社会福祉発達史	4	3・4	社会学科除く		時事英語	4	3・4	国文・英米文学科除く
				短放線大科		計算機言語概論	2	3・4	国文学科除く 前期科目
					臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	国文学科除く 前期科目	
					応用計測学	2	3・4	国文学科除く 前期科目	

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

## 7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
宗教学特講Ⅰ	4		美術史概説	4	※ロ	ドイツ語FLL(初級)	2	
宗教学特講Ⅱ	4		東洋思想研究	4	※ハ	ドイツ語FLL(中級)	2	
宗教学特講Ⅲ	4		日本仏教史	4	※イ	フランス語FLL(初級)	2	
哲学特講Ⅰ	4		日本文化史Ⅰ	4	※ニ } 隔年 休講 } 開講	フランス語FLL(中級)	2	
哲学特講Ⅱ	4		日本文化史Ⅱ	4		中国語FLL(初級)	2	
哲学特講Ⅲ	4		英会話Ⅱ	2	※ヘ	中国語FLL(中級)	2	
宗教人類学	4		ドイツ語F	2		スペイン語FLL(初級)	2	
民間信仰論	4		フランス語F	2		スペイン語FLL(中級)	2	
日本宗教文化史	4		中国語F	2		ロシア語FLL(初級)	2	
民衆宗教成立史	4		スペイン語F	2		ロシア語FLL(中級)	2	
歴史哲学	4	※イ	ロシア語F	2		英語(海外演習)	2	※ホ
日本民俗学	4	※ロ	英語LLⅡ	2	※ヘ			

※イ. 歴史学科を除く。

※ロ. 国文・歴史学科を除く

※ハ. 国文学科を除く。

※ニ. 国文・英米文・歴史学科を除く。

※ホ. 「英語(海外演習)」は、ハワイ大学、カリフォルニア大学、クィーンズランド大学およびブリティッシュコロンビア大学で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.76)を参照のこと。

※ヘ. 「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。

## 8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

注) 再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新規履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新規履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語(英米文学科の英語Ⅲは除く)・体育実技Ⅰ(昭和59年度以前入学生は体育実技)・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。なお、外国語科目を再履修する場合は、2年度に名称変更があったので、新名称科目の再履修クラスで履修すること。

ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で，原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は，各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。  
修得単位は，外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は，8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○昭和62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生，または昭和63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は，これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は，『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部    学科    系列    分野    一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.56参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修)・2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	2
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実            技		1
講            義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1・2・3
選 択 科 目		5・6・7・8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3・4・5・6・7・8

## Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

### 1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ、随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

#### II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目（P.41参照）は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

## 2. 履修届記入上の注意

授 業 時 間 表 (例)

月 曜 日				
	授 業 科 目	科 目 コ ー ド	担 当	担 当 コ ー ド
一 時 限	ドイツ語 1 G	212201	百 濟	879
二 時 限	保健体育理論 (前期)	214201	長 濱	A10
	保健体育理論 (後期)			622
三 時 限	宗 教 学 I	210101	平井 (俊)	735
四 時 限	論 理 学	210203	國 嶋	306
五 時 限	自然科学概論	210401	宇 和 川	104

正 しい 記 入 例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 当	担 当 コ ー ド
(I)	1		ドイツ語 1 G	2 1 2 2 0 1	百 濟	8 7 9
	2		保健体育理論 (前期)	2 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	2 1 0 1 0 1	平井 (俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	2 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	2 1 0 4 0 1	宇 和 川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合 (例として間違い易い数字 0と6, 1と7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

#### 国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

#### 英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	専門教育科目	英語音声学（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

## 地理学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

## 歴史学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

## 社会学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉原論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			15

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月20日（金）～21日（土）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日（水）～2月4日（月）に実施される。
- ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。  
なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。  
（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示板参照）
- ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II) 再 試 験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。  
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

#### III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

#### 4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。  
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

#### 6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追・再試験実施時間（前期）	追・再試験実施時間（後期）
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30	1時限 16:10～17:00	1時限 9:30～10:20
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50	2時限 17:10～18:00	2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10		3時限 13:00～13:50
			4時限 14:10～15:00
			5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.60）ので参照のこと。

## Ⅵ 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。  
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

## VII クラス制およびクラス主任

イ、学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。

ロ、クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## VIII 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	〃	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

## IX 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限
時 間	9 : 00～10 : 30	10 : 40～12 : 10	12 : 50～14 : 20	14 : 30～16 : 00	16 : 10～17 : 40

### 3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## X 学籍について

### 1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。（本大学の修業年限は4年）
- ロ. 在学年数とは、大学において学生的身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

### 2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

#### I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
  - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
  - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
  - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

#### II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

#### III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。（後期分免除）
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

#### IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

### 3. 復学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

## 4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

## 5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

## 6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

## 7. 編 入 学 (学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。

ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

## 8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

## 9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

## 10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

## 11. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

## 12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

--	--	--	--	--	--

⋮    ⋮    ⋮    ┌──────────┐  
 学 学 入    一  
 部 科 学    連  
      (    年    番  
      (    西    号  
      (    度    )

(例) 1990年度入学・文学部  
国文学科12番の場合

2	1	0	0	1	2
---	---	---	---	---	---

⋮    ⋮    ⋮    ┌──────────┐  
 文 国    一  
 学 国    九  
 部 学    〇  
   科    年  
      入  
     学

学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅   学   科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商   学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

## XI 既修得単位の認定について

### イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

### ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、編入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位は、転部・転科が許可された時に、提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ホ. 留学者の単位認定

本学より外国の協定校・認定校へ派遣された学生で、留学先の成績証明書・授業内容等をもとに当該教授会で認定した授業科目（専門選択科目）の単位は、卒業所要単位の算入される。

## XII 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類		要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届       書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること</li> </ul>	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること（締切日は掲示参照）</li> </ul>	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・掲示板にて指示</li> </ul>	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・戸籍抄本添付</li> <li>・変更後1週間以内</li> </ul>	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県名）変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・住民票記載事項証明書添付</li> <li>・変更後1週間以内</li> </ul>	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・在学誓書（保証書）添付</li> </ul>	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・変更後1週間以内</li> </ul>	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・死亡が証明できる書類（写し可）添付</li> </ul>	/	要	
願   書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・傷病による場合は、医師の診断書添付</li> <li>・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届</li> <li>・その他の場合は、保証人連署の理由書</li> </ul>	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付</li> <li>・4月10日までに提出すること</li> </ul>	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり</li> <li>・学生証添付</li> </ul>	要	要	

### XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円  〔英文証明書〕 1通 300円
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書（卒業生のみ） （教職，司書教諭，学芸員，社会教育，社会福祉）		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し，手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上，取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は，6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので，掲示に注意し，十分余裕をもって申し込むこと。

## 試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
  - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
  - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
  - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
  - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
  - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。



## 講義内容目次

一般教育科目 (共通) .....	(66)
保健体育科目 (共通) .....	(72)
随意科目 (共通) .....	(73)
国文学科 .....	(79)
英米文学科 .....	(90)
地理学科 .....	(100)
歴史学科 .....	(111)
社会学科 .....	(126)
他学部履修科目 (共通) .....	(142)

〔巻末〕

教職および資格講座



## 一般教育科目（共通）

人文分野	
宗教学Ⅰ（佐々木 宏幹）	66
宗教学Ⅰ（洗 建）	66
宗教学Ⅰ（山岡 隆晃）	66
宗教学Ⅰ（脇本 平也）	66
宗教学Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）	66
宗教学Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）	66
宗教学Ⅱ（青龍 宗二）	67
宗教学Ⅱ（峰岸 孝哉）	67
宗教学Ⅱ（河村 孝道）	67
宗教学Ⅱ（原田 弘道）	67
宗教学Ⅱ（石井 修道）	67
哲学（戸田 洋樹・中村 友太郎）	67
論理学（榊原 哲成・湯浅 正彦）	67
歴史学（大久保 俊昭）	68
文学（田中 徳定）	68
芸術学（日本美術）（松平 美和子）	68
芸術学（西洋美術）（宮崎 克己）	68
社会分野	
法学憲法（和知 恵一）	68
法学憲法（鷄徳 啓登）	68
経済学（齊藤 正）	69
政治学（小林 正敏）	69
社会学（橋爪 敏）	69
文化人類学（蒲原 大作）	69
地理学（小田 匡保）	69
地理学（矢野 陽子）	69
自然分野	
自然科学概論（宇和川 正人）	70
自然科学概論（篠原 正雄）	70
数学（三好 重明）	70
生物学（清水 善和）	70
生物学（富山 清升）	70
心理学（横山 剛）	70
心理学（牧野 晋）	70
人類学（斎藤 成也）	71
地学（中島 義一）	71
化学（高木 正博）	71
物理学（篠原 正雄）	71

## 保健体育科目（共通）

保健体育理論（三幣 晴三）	72
保健体育理論（森本 葵）	72
保健体育理論（再クラス）（長濱 友雄）	72
保健体育理論（再クラス）（森本 葵）	72

## 随意科目（共通）

宗教学概説（脇本 平也）	73
宗教学概説（洗 建）	73
哲学概説（篠原 壽雄）	73
哲学概説（國嶋 一則）	73
倫理学概説（久保 陽一）	73
宗教人類学（佐々木 宏幹）	73
民間信仰論（谷口 貢）	74
日本宗教文化史（脇本 平也）	74
民衆宗教成立史（洗 建）	74
歴史哲学（大石 紀一郎）	74
美術史概説（中島 野一）	74
東洋思想研究（館野 正美）	74
日本文化史Ⅱ（廣瀬 良弘）	74
日本仏教史（廣瀬 良弘）	74
日本民俗学（谷口 貢）	75
英会話Ⅱ（P. A. ベンディネリ・ J. G. ギャリソン・T. J. コーガン・ J. W. グリフィス・M. ピアス）	75
英語LLⅡ（T. J. コーガン・大庭 直樹）	75
ドイツ語F（松本 洋子）	75
ドイツ語FLL（初級）（P. ジャコムツィ）	75
ドイツ語FLL（中級）（松岡 晋）	75
フランス語F（遠山 博雄）	75
フランス語FLL（初級）（小玉 齊夫）	76
フランス語FLL（初級）（M. マルタン）	76
フランス語FLL（中級）（M. マルタン）	76
中国語F（釜屋 修）	76
中国語FLL（初級）（釜屋 修）	76
中国語FLL（中級）（松本 丁俊）	76
スペイン語F（M. アルマラス）	76
スペイン語FLL（初級）（ホワン・ナバロ）	76
スペイン語FLL（中級）（ホワン・ナバロ）	76
ロシア語F（杉山 秀子）	77
ロシア語FLL（初級）（池田 ガリーナ）	77
ロシア語FLL（中級）（池田 ガリーナ）	77
英語（海外演習）	77

# 一般教育科目(共通)

## 人文分野

もに、人間理解の一助としたい。また、様々な宗教が共存する日本の宗教についても考えてみたい。  
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
¥2,000

### 宗 教 学 I

佐々木 宏 幹

講義はつぎのように展開される。(1)宗教は諸文化のなかでどのような位置を占め、また社会的にどのような役割を果たしているか、(2)宗教をめぐってどのような学説が唱えられたか、(3)世界にはどのような宗教形態があるか、(4)仏教はどのような特色をもつ宗教か、(5)日本の宗教と日本人との関係はどうなっているか。具体的な事例を挙げて考察する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
¥2,000

### 宗 教 学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
¥2,000

〔参考書〕脇本平也著『宗教を語る』(日新出版)

### 宗 教 学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
¥2,000

### 宗教学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
¥2,000

『仏教の歩んだ道1』(東京書籍)

### 宗 教 学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象である。宗教は時代を超えて、人間社会の様々な場面で重要な役割を演じ続けてきた。人間はなぜ宗教を必要とし、宗教は人間にとってどのような意味をもち、個人または社会に対していかに機能してきたか。宗教の起源や構造・機能をめぐる学説を概観することにより、宗教に関する基礎的な理解を深めると

### 宗教学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
¥2,000

『仏教のおしえ』(東京書籍)

## 宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学Ⅰ」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の間人形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

## 宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学Ⅱは、宗教学Ⅰを学んだ後を承けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日の意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

## 宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関わり合いと、そこからの種々の問題について考察する（なお、座禅も行う）。

〔参考書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

## 宗 教 学 II

原 田 弘 道

仏教就中禅を中心に講義を進めてゆく。まず禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、人間生活と禅の真理、禅的生活の展開、禅と文化、禅と現代といった問題を順次とりあげてゆく。

そして禅の日常性の構造、公案の意義、禅的人間像、実践規範と順次とりあげる。禅と文化、禅と現代においては、広く禅と芸術、西欧思想と禅との関係等についても触れるつもりである。

〔参考書〕水野・柴田編『宗教学ハンドブック』

（世界書院）¥2,000

## 宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学Ⅱとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Ⅰの後を承けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ課目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

¥1,950

## 哲 学

戸 田 洋 樹・中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

## 論 理 学

榊 原 哲 成・湯 浅 正 彦

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

## 社 会 分 野

### 歴 史 学

大久保 俊 昭

歴史学とは何か、というテーマを考えるために近年ひとつの潮流となり、また隣接諸学問との関係も深い社会史を中心に検討してみたい。参考書等未定。

### 文 学

田 中 徳 定

文学は歴史的に表面に現れる部分だけでなく、むしろその裏側にひそむ「人間」を描くことによって、その時代というものを逆に照射していると考えることができる。そこで、歴史との関わりの中において、文学は何を描き出しているのかを、日本の文学を中心に考えていきたい。

### 芸 術 学 (日本美術)

松 平 美和子

日本美術の様式を歴史的にたどり、同時に東洋美術との関係を考えていく。なお、授業ではスライド、図版などを多く用いたい。

### 芸 術 学 (西洋美術)

宮 崎 克 己

ヨーロッパのルネサンスから現代までの絵画を考える。各地域、各時代の代表的名作を選んで、掘り下げて論ずる。西洋の美術作品の基本的な見方を修得する事を目標とする。

受講者には、適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポート提出を要求する。

### 法 学 憲 法

和 知 恵 一

我々の日常生活は法と密接に関わり合っている。例えば、本屋さんで週刊誌を買う行為は、「売買契約」という民法 555条以下の規定で律される。映画を見る・電車に乗るといった行為も同様に、すべて法的な側面を持っている。

天ぶらを揚げていて火事を出してしまうということがあるが (S. 59年の東京都では6964件の火事のうち 529件が天ぶらの油による火災)、この火事を出したことで、どんな刑罰が科されるのか、また隣家を焼失させてしまった損害の賠償はどうすべきか？

こういった具体的事例を多数挙げて講義を進める。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著『法学・憲法』(八千代出版)

『ポケット六法』(有斐閣)

〔参考書〕小林弘人他著『憲法27講』(創成社)  
橋本辰夫編著『ケースメソッド現代法学入門』(圭文社)  
小林・高橋・花井・和知著『事例法学入門』(東京教学社)

### 法 学 憲 法

鷓 徳 啓 登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならない問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中枢をなす憲法の理念や原則などについて説明してゆきたいと思う。

〔教科書〕『法学・憲法』(八千代出版) ¥2,800

〔参考書〕『事例法学入門』(東京教学社)

¥1,700

『ケースメソッド現代法学入門』  
(圭文社) ¥1,800

〔新版〕(学文社)  
〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

## 経済学

齊藤 正

円高、貿易摩擦、地価上昇、株式ブーム、消費税、インフレーション、といった経済現象は社会を構成する様々な人々の行為の結果として生じたものです。経済学はそれらの経済現象が誰の、どのような行為によって惹き起こされ、それが誰に、どのような影響を及ぼすかを見極める学問であるといえます。

そのことを理解するためには、私たちの生きている社会(資本主義社会)の特徴が何であり、どのようなメカニズムによって成り立っているかを知る必要があります。

本講義では、経済現象の具体例を挙げながら「経済学的とらえ方」を学びます。  
〔教科書・参考書〕授業の中で指示します。

## 文化人類学

蒲原 大作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粋な形で保っていることので多い未開民族(未開社会)が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』(有斐閣双書)

## 政治学

小林 正敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会科学の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な視点をも重視したい。

〔教科書〕高橋正則他著『現代日本の政治構造』(芦書房)

## 地理学

小田 匡保

地理学の大枠を外観した後、特に集落や文化の地理学的見方について述べる。

## 社会学

橋爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』

## 地理学

矢野 陽子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質(地域の特性)を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕『日本地誌』〔改訂増補版〕¥1,900  
地図帳使用。

# 自然分野

## 自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

## 自然科学概論

篠原 正 雄

「人間はいかにして宇宙の中に生まれたか」

20世紀前半の自然科学は、原子が素粒子から成ることや、我々の銀河系の外にも無数の銀河のあることを発見した。今日では、素粒子を構成するクォーク粒子の性質が研究され、我々の宇宙の外の無数の宇宙につき議論されている。また、分子生物学や太陽系探査の成果を加えて、地球史・生物史の認識も深まった。

この講義では、「宇宙人はいるか?」という問いを携えながら、「素粒子の中から宇宙の外まで」、「宇宙の誕生から人類の出現まで」、現代の自然科学が招く自然像を、研究史を交えながら展開する。

〔教科書〕八杉龍一著『図解 科学の歴史』  
(東京教学社) ¥1,700

## 数 学

三 好 重 明

数学的考え方の基本的な一側面を理解することを目標とする。そのために、主に幾何学(特にトポロジー)から題材をとって、現代的視点から、問題解決へ向けて数学理論が如何にして構築されていくかを示してみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

## 生 物 学

清 水 善 和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起原から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦系に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横系に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれてバイオテクノロジー、脳死、生殖革命などの現代的な問題についても言及する。

〔教科書・参考書〕なし

## 生 物 学

富 山 清 升

進化、遺伝、生態・自然保護を3つの柱として、生物学の基本的知識を中心に、人間生活と関連した問題や最近話題になっている問題(遺伝子工学、ガン・免疫、環境問題etc)をまじえ、わかりやすく解説する予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

## 心 理 学

横 山 剛

本講義は心理学の主要な領域と心理学の対象・方法について基礎的な知見を与える入門の講義である。内容としては、感覚や知覚、学習、記憶などの基礎の分野から情緒、知能、性格、異常などの応用・臨床的な分野などを解説する。いずれにせよ、学生諸子が己れの理解を深め、複雑な現代の社会現象を見ていく上の一助となれば幸いである。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

(八千代出版) ¥1,400

〔参考書〕村山貞雄監修、霜山徳爾編『臨床心理学』(学術図書出版)

## 心 理 学

牧 野 晋

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、人間理解への一つの方法として、心理学のとり、科学的アプローチとはどのような

ものであるかを考えていく。日常生活において見られる人間の様々な行動について、従来の研究成果をもとに解説しながら、心理学的なものの見方、考え方がどのようなものであるかを理解してもらいたい。また講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

(八千代出版)

〔参考書〕開講時に指示する。

## 人 類 学

齋 藤 成 也

人類進化を中心に、自然人類学を講義する。内容は、(1)人類学とはなにか、(2)人間観の変遷、(3)進化論と進化思想の歴史、(4)脊椎動物としてのヒト、(5)哺乳類としてのヒト、(6)霊長類としてのヒト、(7)霊長類の分類と進化、(8)霊長類の生態と行動、(9)化石からみたヒト科の進化、(10)人類進化の独自性、(11)遺伝子の進化と中立説、(12)分子からみたヒト科の進化、(13)人種と民族、(14)採集狩猟民の社会、(15)人類集団間の遺伝的近縁関係、(16)海外調査、(17)先史学と年代学、(18)日本の先史時代、(19)日本人の起源と成立、(20)新石器革命と文明の誕生、等を予定している。

〔教科書〕齋藤成也編著『人類学講義資料』

(駒沢書房にて購入すること)

¥500 (予価)

## 地 学

中 島 義 一

地学のはんいは広いが、陸水学・気候学・地形学の主要問題を講義する。地図帳(高校生の時に使用したものでよい)を忘れずに持ってくること。

## 化 学

高 木 正 博

まず、物質の本性について、原子の結びつきから解説する。つぎに、地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわりあいについてのべる。

## 物 理 学

篠 原 正 雄

「エネルギーはいくら使っても少しも減らない」(??エネルギー保存法則)ならば、なぜ「エネルギー問題」などがあるのだろうか?本講では、物理学の基本概念である「エネルギー」を軸に、物理の諸分野を概観する。はじめに、エネルギー概念の出発点となった力学の分野を、力学的な「力」と「エネルギー」を中心に解説する。次に、「エネルギー」の流れを追って、熱、光、電磁気、原子等の分野を探る。最後に、宇宙物理学の成果にも触れたい。

〔教科書〕藤城敏幸著『生活の中の物理』

(東京教学社) ¥1,600

## 保健体育科目（共通）

### 保健体育理論

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際的考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容をとりあつかう。

### 保健体育理論（再クラス）

長 濱 友 雄

科学技術の発達と共に人間はだんだんと身体を動かすことが少なくなっている。医学の進歩とともに寿命も大巾にのびて高齢化社会をむかえている現在，我々はそれにどのように対応し，健康で有意義な生活を送るために体力を高めなければならないと考えるが，そのための方策について講義を進める。

### 保健体育理論

森 本 葵

#### 体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

#### オリンピックゲーム

- 〈歴史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

### 保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

#### 体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

#### オリンピックゲーム

- 〈歴史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

## 随 意 科 目 ( 共 通 )

### 宗教学概説

脇 本 平 也

— 宗教学説史 — 経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

〔参考書〕その都度指示する。

### 宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕適時指示する。

### 哲 学 概 説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかに受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『莊子』〔内篇〕（中公文庫）

### 哲 学 概 説

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に

拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとなしたい。

〔参考書〕その都度示す。

### 倫理学概説

久 保 陽 一

デカルト以来の主観—客観図式や人間中心主義とりわけ意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の合言葉となっているかのようにみえる。しかし意識を言語や実存や行為や無意識等で置き換えるだけで、人間の自己認識の問題が解消するわけではない。この問題については、カントからヘーゲルにいたるドイツ古典哲学から尚学すべきものが多い。前期ではカントの道徳哲学について、後期ではヘーゲルの「人倫」の思想や宗教哲学について取り上げることにしたい。

〔参考書〕カント著『道徳形而上学原論』

（岩波文庫）

ヘーゲル著『法の哲学』（中央公論社  
世界の名著「ヘーゲル」）（以文社）

ヤメ・ベゲラー編『ヘーゲル・ヘルダ  
ーリンとその仲間』（公論社）

### 宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔教科書〕佐々木宏幹著『聖と呪力 — 日本宗教の人類学序説 —』（青弓社）

¥2,060

## 民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔教科書〕桜井徳太郎著『祭りと信仰』（講談社学術文庫）¥840（本体価格）

## 日本宗教文化史

脇 本 平 也

— 夢の問題 — 教科書、およびその他の関連の文献を読む。出欠をとり、文献読解の分担を課する。

〔教科書〕『日本人の深層分析 5 夢と象徴の深層』（有斐閣）

## 民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）¥2,000

## 歴史哲学

大 石 紀一郎

この講義では、われわれが現代において「歴史」と取り組むことはどのような意味を持ちうるか、また、歴史の研究はどのようにして可能であるのか、そして、歴史に関する哲学的反省と歴史の研究とはどのような関係にあるのかという3つの問いを導きの糸にしつつ、ヨーロッパにおける「歴史」の思想の展開を概観し、とりわけ19世紀以降のドイツにおける歴史哲学と歴史学の関係、歴史主義とその克服の試みに焦点を当てて、現代における歴史とのありうべき関係を考えていくことにする。

〔教科書〕〔参考書〕講義のなかで指示する。

## 美術史概説

中 島 亮 一

美術史を学ぶには、未だに生命を保ち続ける遺跡、遺物の研究が重要で、それらを生んだ民族、風土、思潮、美意識、作家集団などをマクロ的に、またミクロ的に検討することが必要である。そこで前半では主に西欧の美術、後半では主に東洋の美術に視点をおき、その造形理念や技術をスライドを使って、芸術学的な視点からも考察を加え、更に「見せる側」、「見る側」の鑑賞とは如何にあるべきかなどについても考えたい。

〔教科書〕井上 章著『美と美術』（家政教育社）¥1,545

〔参考書〕その都度指摘する。

## 東洋思想研究

館 野 正 美

中国古代の哲学思想のうち、本年度は、特に「易」の哲学体系に焦点をあてて講義する。

易の哲学体系は、「占い」という一種の宗教的実践を背景に、深い形而上学的思惟によって貫かれた、六十四卦の象徴体系（シンボリズム）であると考えられる。そこで、この易の哲学体系を概観することによって、中国古代における哲学的思惟の一端を、いささか明らかにすることができると思うのである。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に紹介します。

## 日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

## 日本仏教史

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりにつ

いて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

## 日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

## 英 会 話 Ⅱ

P. A. ベンディネリィ・J. G. ギャリソン  
T. J. コーガン・J. W. グリフィス  
M. ピアス

全学で6クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

## 英語L L Ⅱ

T. J. コーガン・大 庭 直 樹

英語L L Iのアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語L L Iを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

（大庭）前半は英語を耳で聞いて理解する力を集中的に訓練し、後半はTOEFL、TOEIC等の問題に挑戦する。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

## ドイツ語F

松 本 洋 子

ドイツの第三帝国に関係する論文、またはドイツ新聞（Die zeit, Neues Deutschland, Die Frankfurter Allgemeine）の論評などを読みながらドイツ語の読解力をつけて行く、同時にドイツの歴史、社会についての理解を深めて行きたい。テキストはプリントで配布する。

## ドイツ語F L L（初級）

P. ジャコムツィ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身に付け、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

## ドイツ語F L L（中級）

松 岡 晋

本講義はF L L（初級）終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履習してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。

## フランス語F

遠 山 博 雄

前期については語学のレベルを中級から上級に引き上げることを第一目的とし、フランス語の文章を欲張らずにじっくりと読んでいきます。テキストは参加する学生諸君の希望を聞いてから、また所属学部を考慮にいれて、第一回の授業の時に決定します。後期に関しては、前期授業による語学知識の深化をふまえて、再度学生諸君と相談の上教材を選択するつもりです。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を用いて、一年間で何とか「初級」のフランス語が話せ、聞きとれるようにします。文法は、知識としては、有ったほうが有利でしょうが、特に重要とは言いきれません。ふだんと同じような、日本語を話したり聞いたりするのと同じ調子で、授業に(休まず)出てきて、声を出していれば、おのずからフランス語での「おしゃべり」の基礎がつくられていく、はずです。初心者でも参加できるような授業内容にするつもりです。〔教科書〕開講時に指示します。

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。〔教科書〕『Avec Plaisir 1』

中 国 語 F

釜 屋 修

中国語一年以上履修者を対象とする。最近の中国文学作品を精読しつつ、現代中国の民衆像についてともに考えていく。〔教科書〕開講時にプリント配布。〔参考書〕その都度紹介する。

中国語 F L L (初級)

釜 屋 修

中国語を一年間履修したもの、あるいはそれと同等の学力を有するものを対象とし、日常初級会話を中心に、口語基本表現形式の習得をめざす。ビデオ教材使用。〔教科書〕開講後指示する。〔参考書〕開講後指示する。

中国語 F L L (中級)

松 本 丁 俊

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

M. アルマラス

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリーオーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

## ロシア語F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——最新版のアガニョーク、諷刺漫画（クロコディル）、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に、現代ソ連におけるペレストロイカの動向を探っていきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

## ロシア語F L L（初級）

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』（白水社）

## ロシア語F L L（中級）

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話のイントネーションや、平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』（白水社）

## 英語（海外演習）

この授業科目はハワイ大学・カリフォルニア大学・クイーンズランド大学・ブリティッシュコロンビア大学における短期留学セミナーでの四週間・60時間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、1年次生から卒業年次生までとする。

# 国文学科

## 基礎教育科目

基礎国文学 (高田 知波) .....	79
基礎国文学 (田中 徳定) .....	79
基礎国語学 (若杉 哲男) .....	79
基礎中国文学 (中村 璋八) .....	79

## 専門教育科目

国文学概論 (水原 一) .....	79
国語学概論 (木村 晟) .....	79
国文学講読 I (村上 光徳) .....	80
国文学講読 II (田中 徳定) .....	80
国文学講読 III (林 達也) .....	80
国文学講読 III (富士 昭雄) .....	80
中国文学講読 (篠原 壽雄) .....	80
国語学研究 (木村 晟) .....	80
国語学研究 (田中 章夫) .....	80
国語学研究 (長尾 勇) .....	80
国文学史 (上代) (遠藤 宏) .....	81
国文学史 (中古) (高橋 文二) .....	81
国文学史 (中世) (村上 光徳) .....	81
国文学史 (近世) (林 達也) .....	81
国文学史 (近代) (畑 實) .....	81
国語学演習 I (木村 晟) .....	81
国文学演習 I (上代) (小野 寛) .....	81
国文学演習 I (中古) (高橋 文二) .....	81
国文学演習 I (中古) (田中 徳定) .....	82
国文学演習 I (中世) (水原 一) .....	82
国文学演習 I (中世) (村上 光徳) .....	82
国文学演習 I (近世) (林 達也) .....	82
国文学演習 I (近世) (富士 昭雄) .....	82
国文学演習 I (近代) (片岡 懋) .....	82
国文学演習 I (近代) (高田 知波) .....	82
国文学演習 I (近代) (畑 實) .....	82
国語学演習 II (木村 晟) .....	82
国文学演習 II (上代) (小野 寛) .....	83
国文学演習 II (中古) (高橋 文二) .....	83
国文学演習 II (中古) (田中 徳定) .....	83
国文学演習 II (中世) (水原 一) .....	83
国文学演習 II (中世) (村上 光徳) .....	83
国文学演習 II (近世) (林 達也) .....	83
国文学演習 II (近世) (富士 昭雄) .....	83
国文学演習 II (近代) (片岡 懋) .....	83
国文学演習 II (近代) (高田 知波) .....	83
国文学演習 II (近代) (畑 實) .....	84
国文学研究 (片岡 懋) .....	84

国文学研究 (畑 實) .....	84
国文学研究 (村上 光徳) .....	84
国語学史 (田中 章夫) .....	84
言語学概論 (飯島 周) .....	84
上代文学講読 (小野 寛) .....	84
近代文学講読 (高田 知波) .....	84
上代文学 (小野 寛) .....	85
中古文学 (廣島 まさる) .....	85
中世文学 (水原 一) .....	85
近世文学 (富士 昭雄) .....	85
近代文学 (片岡 懋) .....	85
近代文学 (高田 知波) .....	85
国文学特講 I (近藤 瑞男) .....	85
国文学特講 I (武藤 元昭) .....	85
国文学特講 II (岩佐 美代子) .....	86
国文学特講 III (神野藤 昭夫) .....	86
国文学特講 IV (牧野 和夫) .....	86
中国文学 (中村 璋八) .....	86
中国文学演習 (中村 璋八) .....	86
中国文学概論 (篠原 壽雄) .....	86
仏教概論 (山内 舜雄) .....	86
東洋思想研究 (館野 正美) .....	86
日本史概説 I (古代・中世) (渡辺 直彦) .....	87
日本史概説 II (近世・近代) (木槻 哲夫) .....	87
日本文化史 II (廣瀬 良弘) .....	87
書道史 (谷村 義雄) .....	87
書道実習 I (金子 卓義) .....	87
書道実習 II (金子 卓義) .....	87
美術史概説 (林 良一) .....	87
美術史 (谷村 義雄) .....	87
現代美術 (宮崎 克己) .....	88
編集実務 (長谷川 孝) .....	88
英米文化 (荒井 良雄) .....	88
日本民俗学 (谷口 貢) .....	88























































































































































































































